

「反戦デモ 国家崩壊の危険」

陸上自衛隊の湯浅陸幕長（沼波）が2001年1月に、陸上自衛隊（いわゆる偕行社（東京都新宿区）の講演で、「反戦デモ」と「報道」をテロと同列にして敵視する発言をしたことが判明。現在は田澤軍出典者や陸上自衛隊を主な会員とする公益財団法人です。「英靈に敬意を。日本に誇りを」をスローガンに、培養社の定例参拝や「安全保障」と「近現代史」の学習活動をしております。

偕行社は日本陸軍将校の親睦のため明治10年（1877年）に創立。現在は田澤軍出典者や陸上自衛隊を主な会員とする公益財団法人です。「英靈に敬意を。日本に誇りを」をスローガンに、培養社の定例参拝や「安全保障」と「近現代史」の学習活動をしております。

安保法制の対象

偕行社の月刊誌『偕行』（19年12月号）は、「メモに書き要約」して湯浅陸幕長の講演を掲載しています。それによれば湯浅氏は「グレーブン事態」と「クレーヴン事態」に対応するかを考証。これらは報道、テロ行為、煽動による反戦デモなど多様な形態がある。この事態の特徴は、國家が非常事態であると認識する以前に反戦気運を高めて国家崩壊へ向かわせてしまふ危険性がある」と

「反戦デモ」を「報道」をテロと同列にして敵視する発言をしました。

偕行社は日本陸軍将校の親睦のため明治10年（1877年）に創立。現在は田澤軍出典者や陸上自衛隊を主な会員とする公益財団法人です。「英靈に敬意を。日本に誇りを」をスローガンに、培養社の定例参拝や「安全保障」と「近現代史」の学習活動をしております。

テロと同列視 あたるの認識を示して います。

「グレーブン事態」に「クレーヴン事態」とは、「武力攻撃に至らぬ手段で國の主張をめぐらすもの」とあります。

「独自の情報収集のほか、日・米・多国間での情報共有をしていく」と本共産党の穀田恵一議員が取り上げました。穀田氏が語ったとした資料は20年2月に陸幕が記載を対象とした勉強会で配布したもの。記者から「反戦デモ」の記載が不適切との指摘を受けて回収し、「暴徒化したデモ」と書きかえて再配布していました。偕行社での講演は、資料を修正する前の19年10月に行われました。

東京都防衛協会のホーミペーションによると、湯浅陸幕長は20年1月に同協会の集まりでも、「陸上自衛隊の今後の取り組み」というタイトルで講演しています。

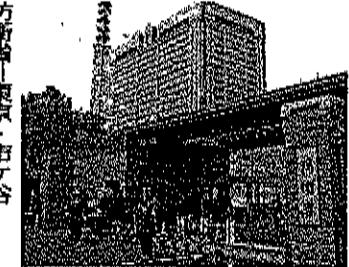
本紙は、湯浅氏の講演内容について陸上自衛隊を取材しましたが、期限までに回答がありませんでした。

相手に説教するもの」とされ、安保法制を発動する対象となる事態の」とだ。され、安保法制を発動する対象となる事態の」とだ。田の衆院外務委員会で日本共産党の穀田恵一議員が取り上げました。穀田氏が語ったとした資料は20年2月に陸幕が記載を対象とした勉強会で配布したもの。記者から「反戦デモ」の記載が不適切との指摘を受けて回収し、「暴徒化したデモ」と書きかえて再配布していました。偕行社での講演は、資料を修正する前の19年10月に行われました。

東京都防衛協会のホーミペーションによると、湯浅陸幕長は20年1月に同協会の集まりでも、「陸上自衛隊の今後の取り組み」というタイトルで講演しています。

本紙は、湯浅氏の講演内容について陸上自衛隊を取材しましたが、期限までに回答がありませんでした。

陸幕長 偕行社で講演



防衛省 東京・市ヶ谷

湯浅陸幕長の講演を掲載した『偕行』。「反戦デモ」が「反戦気運などを高めて国家崩壊に向かわせてしまう危険性」との記述があります

湯浅陸幕長の講演を掲載した『偕行』。「反戦デモ」が「反戦気運などを高めて国家崩壊に向かわせてしまふ危険性がある」と